

Ⅱ 研究の全体構造図

学校教育目標

- ・よく考え 意欲的に学ぶ子
- ・命を大切にし、たくましくやりぬく子
- ・豊かな心を持ち、協力し合う子
- ・勤労の大切さを知り、すすんで働く子

経営の重点

「学ぶ喜びと笑顔あふれる学校（ウェルビーイングの実現）
～教育の力、子どもの力、家庭・地域の力、三方の高まりと融合～」

社会情勢から見える課題

- ・Society5.0時代の到来
 - ・新型コロナウイルスの感染拡大による生活様式の変化
 - ・子どもたちの多様化
- （特別支援教育を受ける児童やいじめの重大事項 不登校児童数の増加）

教師側から見える児童の実態と課題

- 素直でまじめ ○素朴で子どもらしさ ○ルール遵守
- 相手を見て行動に変化 ●指示待ち ●偏った知識や偏見 ●慣習決定
- 考え方が幼い ●レジリエンスが低い ●自分に自信がない

目指す子ども像 「自分が好き 友達が好き 学校が好き 帯広の街が好きな帯小っ子」

- （１）学びの主体意識を持ち、自己を見つめこれからの生き方について考えたり深めたりする子ども
- （２）学びと生活をつなげ、よりよく生きようとする子ども

研究主題

「個の追究」と「集団の追究」
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

研究仮説

- ①授業内のどこかに意図的に自分を見つめ直す場を設定することで、自己有用感を高めることができるだろう。
- ②授業で児童が自身の学び方を選択決定する場を設定することで、課題に対して受け身ではなく主体的に臨むことができるだろう。
- ③互いの感性や考え方の対話が循環する交流をすることで、自己の考えを多面的・多角的に広げ、深めることができるだろう。

研究を実現する手だて

仮説①

授業内のどこかに意図的に自分を見つめ直す場を設定することで、自己有用感を高めることができるだろう。

仮説②

授業で児童が自身の学び方を選択決定する場を設定することで、課題に対して受け身ではなく主体的に臨むことができるだろう。

仮説③

互いの感性や考え方の対話が循環する交流をすることで、自己の考えを多面的・多角的に広げ、深めることができるだろう。

個の追究 集団の追究

【目指す子ども像】

自分とじっくり向き合う子ども

【目指す子ども像】

仲間としっかり向き合う子ども

研究内容①

自己を見つめる場面の工夫

研究内容②

学び方を自分で選択・決定する場面の工夫

研究内容③

「なるほど」「でも、やっぱり」が続く交流の工夫

研究を支える取組

学習規律

学級風土

教室環境

言葉の力の育成

かがや木

学校

地域

家庭